

氏名	川端 久詩
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	院博甲第 24 号
授与機関	東京成徳大学
学位授与年月日	2021 年 3 月 18 日
学位授与条件	学位規則第 5 条第 2 項及び第 3 項該当
学位論文題目	Being-in, Being-for, Being-with の視点による不登校中学生の成長過程 - 相談学級の生徒に対する SGE を通して -
論文審査委員	主査 田村 節子 東京成徳大学大学院 教授 副査 石隈 利紀 東京成徳大学大学院 教授 田中 速 東京成徳大学大学院 教授 西村 昭徳 東京成徳大学大学院 准教授

1. 論文概要：（1）目的、（2）方法、（3）結果及び考察

（1）目的

本研究の目的は C.Moustakas の「Being-in, Being-for, Being-with」の 3 種類の間関係の視点を基盤にした、人との関わりにおける相談学級の不登校生徒の成長過程を明らかにすることである。

（2）方法

研究 1 では中学校相談学級の生徒 9 名を対象として SGE（構成的グループ・エンカウンター）を行い事前事後で人間関係尺度、自尊感情尺度、進路決定不安尺度を実施した。研究 2 では適応指導教室、相談学級合わせて 3 箇所 SGE を「SGE 体験過程質問紙」を実施した。研究 3 では、相談学級で演劇に出演した 3 名の不登校生徒の日記、文集、および「人間関係のプロセスと成長過程」に関する半構造化面接の結果を分析した。研究 4 ではフリースクール修了生 5 名に「人間関係のプロセスと成長過程」に関する半構造化面接を行った。

（3）結果と考察

不登校生徒の教師や友人との人間関係は、Being-in、Being-for、Being-with の順序性で、生徒の成長と関わっていることがわかった。また Being-with の段階で、Being-self と呼べる自分への関わりが出てくることが分かった。フリースクールにおける Being-in に関しては、フリースクールに通う以前に親によって不登校であることを受容してもらっていること、フリースクールの受容的な「雰囲気」を感じていることが分かった。不登校生徒は、教師・友人・親との人間関係を通して成長していくと考察された。また相談学級、フリースクールなどの居場所が Being-in の機能をもつことが示唆された。Being-for、Being-with は教師など援助者だけでなく友人間の人間関係としても成立することが確認された。

2. 評 価 :

不登校生徒に関して、教師・友人との人間関係のプロセスで研究したものは少なく、また不登校経験者の経験からの研究もまだ少ない。本研究は学校心理学の視点から、不登校生徒が教師・友人との関係で成長する過程に関する視点を提供するものである。研究の方法は実践と当事者に対する半構造化面接の結果の分析であり、説得力のあるデータ分析が行われている。本論文は博士論文としてのレベルに達していると評価できる。

3. 最終試験結果 :

2021年2月6日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

4. 結 論 :

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2021年2月24日